

令和7年度「きんぼう雪あそび」事前研修会 資料

1 提出書類

1	きんぼう雪あそび利用申請書	全団体	利用日の28日前までに提出
2	食物アレルギー個人調査票	給食を申し込み、該当者がいる場合人数分	利用日の28日前までに提出

2 活動プログラムについて

- ・実施要項の「活動の紹介」を参考にプログラムをご検討ください。「きんぼう雪あそび利用申込書」を作成する際は、「きんぼう雪あそび日程一覧」の時刻をもとに作成してください。
- ・バス時間の変更を希望される場合は、事前にご相談ください。

3 荒天等による中止、延期について

- ・利用をキャンセルする場合は速やかに自然の家へ電話連絡してください。
- ・ご利用当日、荒天等により中止を決定した団体は、バス出発時刻の30分前、遠距離の場合は1時間前まで自然の家に電話で連絡してください。（8時20分より受付）
- ・バス配車の都合上、原則として利用日の変更、延期はできません。

実施の可否判断について

①コース付近の切株、葎などが隠れる積雪量

②活動開始前の天気の状態

×大雨警報、暴風警報、暴風雪警報 △大雪警報、雷注意報（注意報の実施判断は団体が行う）

前日⇒14時まで実施不可の可能性がある場合のみ団体へ連絡

当日⇒8時30分にゲレンデ利用ができない時は所から団体へ連絡

※団体から所へ中止、活動変更の連絡

活動中⇒警報発令、天気急変など

4 雪道における安全管理上のお願い（来所する保護者の方にも必ずお伝えください。）

マイクロバス、大型バス等は、チェーンをつけないと坂道を登れない場合があります。自家用車も、4WD車でないと登るのが難しい場合があります。道路状況を電話にてお問い合わせください。積雪により駐車スペースに限りがあります。自家用車で来所する場合はできるだけ台数を少なくし、事前に台数を報告（活動プログラムに記入）してください。

5 金峰バスの利用について

- ・天候や道路状況、チェーンの着脱によって遅れが出る場合があります。
- ・道路状況やチェーン着脱に時間がかかる場合等、自然の家までの坂道を歩いて登っていただく場合があります。
- ・シートベルト着用の確認、人数確認は引率の方から行っていただきます。

6 利用当日の流れと引率者の動き

	引率者の動き	所員の支援
可否判断	各団体で気象情報等をもとに実施判断	・ゲレンデ状況の情報提供
バスで各施設を出発	・シートベルト装着、人数の確認 ・受付カード(活動プログラム)の修正	・乗降補助
金峰に到着	・出会いの集いの準備、整列 ※荒天でなければ出会いの集いは外で実施	
出会いのつどい	・つどいの進行 ① 所長の話 ② オリエンテーション	・所長の話 ・施設の使い方、動物の足跡等
活動(午前・午後)	・各団体のプログラムにより活動を実施 (ゲレンデ、野外コースから戻る時には、 事務室にトランシーバーで連絡する) ・道具の受け渡し。道具返却。 ・室内トイレの使用の見届け、使用後の確認	・ヒップスライダーの説明 ・準備運動 ・ゲレンデまでの案内 ・滑り方、止まり方実演
乾燥室の使用	・乾燥室の忘れ物の確認	・乾燥室の暖房準備
ココア(外テーブル、ロビー、食堂)	・食堂でやかん(ココア)と湯飲みを受け取る。 ・湯飲みココアを入れ配る。	・やかんにココアを用意
アイスクリーム作り	・全体指導	・作り方の説明
食事(食堂・他)	・時間で食堂に移動する。 ・食事の受取り補助、福神漬をよそう。 ・片付け補助 ※カレー皿は重ねない。 ・台ふき、床の汚れの点検	
休憩(ロビー等)	・安全の見届け、トイレの確認	
支払い(事務室)	・事務室で請求書の確認、お支払い ※お支払方法は、現金、後日現金、振込	・領収書発行
別れのつどい	・つどいの進行 ① 所長の話	・所長の話
自然の家を出発	・シートベルト装着、人数の確認	・乗降補助
	・利用者アンケートの入力	

※「出会いのつどい」と「別れのつどい」の進行は利用団体の引率者をお願いします。

7 館内の利用について

- ① 体育館、食堂、研修室を利用する場合は、内履きをご持参ください。
- ② 乾燥室を利用する団体は、プログラムに「乾燥室利用」とご記載ください。
- ③ 食堂利用は、利用時間に合わせ食堂までお越しくください。食堂の座席は入口側を中心にご利用ください。使用後は台ふきと床の汚れの点検をお願いします。
- ④ 休憩場所として、ロビーをご利用ください。他団体との重なりがある場合は、2階研修室を指定させていただきます場合があります。

8 食事注文について

メニュー	ちびっこ弁当	ちびっこカレー	ちびっこカレー 大盛	麦茶 250mLパック	りんごジュース 190mL 缶	野菜ジュース 125mL パック	牛乳 200mLパック	ココア やかんで提供
1人分の値段 (円)	410	410	490	110	110	110	140	50

- ・ ホームページ「お知らせ」欄『「きんぼう雪あそび」実施団体のみなさまへ』にメニュー詳細へのリンクがあります。ご確認ください。
- ・ 給水機は利用できません。お弁当やカレーに飲み物は付きませんので、必要な場合は、水筒をご持参いただくか、麦茶、オレンジジュース、野菜ジュース、牛乳をご注文ください。飲み物は人数にかかわらず、ご希望の個数を注文いただけます。人数分の湯飲みをご用意します。
- ・ 活動プログラムの給食申込欄に記入して、実施日の28日前までにお申込みください。
- ・ 「ちびっこ弁当」と「ちびっこカレー」の組み合わせは注文いただけません。「ちびっこカレー」と「ちびっこカレー大盛」は組み合わせて注文いただけます。
- ・ 食堂利用可能時間は11:00～13:00です。食堂に入る時間、弁当・ココアを受け取る時間は、活動プログラムに記入し、お知らせください。
- ・ 食物アレルギーの該当者がいる場合は、人数分の「食物アレルギー個人調査票」を提出してください。(28日前まで提出)
- ・ 食数の変更は、ご利用日の4日前(※休所日を除く)の14時までです。それ以降の数量変更はできません。
- ・ 食事注文そのもののキャンセル(食数をゼロにする変更)は、できる限り早い段階で、ご利用日の7日前(※休所日を除く)の14時までお知らせください。これ以降は実費負担いただきます。
- ・ 利用キャンセルの場合、注文していただいた食事は、団体より金峰少年自然の家まで取りにきていただくことでお渡し可能です。食器類は汚れをキッチンペーパー等でふき取って15時までご返却ください。詳しい提供方法はご相談ください。
- ・ ココアのみ、利用キャンセル時に料金はいただきません。ただし、変更期限後の、欠席等による人数変更については、実費負担いただきます。

9 野外活動時の留意点

- ① 活動中にトイレ等で活動地を離れる子がいる場合等、必ず引率者(保護者など)が付き添ってください。その際は、スタート、ゴールともに引率が配置されるようにしてください。(4名で引率している場合は、一時的に3名で活動を行うこととなります。)
- ② 各団体にトランシーバーを3基(大1、小2)の貸出をします。係員の連絡や、事務室への連絡にご使用ください。
- ③ 活動時に、けがや事故があった場合は、速やかに全体の活動を停止し、安全の確保と応急処置を行い、トランシーバーで所員に連絡をしてください。
- ④ 活動中に、天候の急変等があった場合は、速やかに全体の活動を停止して、安全の確保に努めてください。
- ⑤ ロングヒップスライダーの活動中は写真係と補助の係などの兼務はできません。

10 ロングヒップスライダー、そりすべりの流れ

※各所要時間を確認し余裕をもった計画をお願いします。

① 出会いの集いの後、服装を整え、玄関前に集合する。

※服装の準備やトイレを済ませて来所していただければ、出会いの集いから続けてオリエンテーションを開始します。

② オリエンテーション(ロビーか玄関前)(所員)(10分程度)

【オリエンテーションの内容】

- ・身支度の注意点
- ・ゲレンデまでの歩き方
- ・ヒップスライダー(そり)の持ち方
- ・ヒップスライダー(そり)乗り方、ブレーキのかけ方
- ・ヒップスライダーは一人一つ使用するため、友達と交換せず、無くさないこと。
- ・そりは友達と交代で使うため、順番を守ること。
- ・故障などがあったときは、大人に声をかけること

ホームページにヒップスライダーのオリエンテーション動画がありますのでご覧ください。

③ 道具の準備、受け渡しをする。(5~10分)

※引率者が子どもにヒップスライダーを渡す。

※所員が引率者にスコップ、トランシーバー、そりを渡す。

④ ゲレンデに移動する(約10分)(先頭は所員)

⑤ 引率者が担当場所に移動し、所員がすべり方(止まり方)の例を見せる。

	役割	人数	指導・支援内容
ロングヒップスライダー ※1レーンにつき	スタート	1名以上	・合図までスライダーに座らないように指示を出す。 ・ゴール担当からの合図(トランシーバー)を受けて、前の子が滑り終わったことを確認し、スタートの合図を出します。
	ゴール	1名以上	・ゴールの雪面を整備してブレーキをかけやすくする。 ・安全を確認し、スタート係にトランシーバーで合図を出す。 ※ゴール用の雪山は作らないこと
	誘導	1名以上	・滑り終わった子を速やかに、通路に誘導します。
そりすべり	スタート	1名以上	・安全が確認でき次第、スタート係にスタート可能の合図を出す。
	ゴール	1名以上	・ゴールした子がスタート地点に並ぶように誘導します。

⑥ 各団体で、安全に実施する。 ※所員は、活動開始後に、活動地を離れます。

⑦ 終了時刻になったら道具を持ち、本館前に戻る。(10分)

⑧ 人数を確認し、トランシーバーで事務室までゲレンデから戻る旨を伝える。道具を返却する。

11 ロングヒップスライダー、そりすべりの留意点

- ① 雪の質やコースの状況によって、コースアウトなどの危険が考えられます。隣同士のコースで同時にスタートすることは避けてください。ゴール担当者は、コース上の子どもの様子を見届け、安全に配慮してください。
- ② ゲレンデでの活動は、安全確保を徹底しながら実施します。ロングヒップスライダーやそりすべりはスピードが出て、下まで滑り降りていく可能性があるため、ゲレンデの状況によってはスタート位置を下にしたり、ゴール地点の雪面を柔らかくしたりする対応をお願いします。ゴール用の雪山は、作らないこととします。
- ③ 所員の活動支援は、オリエンテーションからゲレンデにてすべり方の説明が終わるまでとなります。
- ④ 安全に実施していただくために、必ず4名以上の支援人員を確保してください。スタート、階段誘導、ゴール地点のそれぞれで監視、指導・支援を行う役割となります。保護者の協力を得て活動していただくことも可能です。
- ⑤ 子ども用のヘルメット(20個)を貸出可能です。事前にご相談ください。

12 雪山たんけんの流れ

- ① オリエンテーション(ロビーか玄関前)(所員)

【主なオリエンテーションの内容】

- ・身支度の注意点
- ・雪道の歩き方
- ・冬の里山で見られる自然について

服装

ゲレンデの活動と同様に、スノーウェア、長ぐつ、手袋、帽子。大人には、かんじきを貸出できます。

- ② 服装の準備を整え、玄関前に集合します。(トイレも済ませること)(引率者で声かけを)
- ③ 準備運動を行う。(引率者)
- ④ 出発 ゲレンデ脇まで所員が付き添います。

- ・もみのき広場やもみのき広場の雪面を歩き回ってみよう！
 - ・だれも通っていないところを歩いてみよう！
 - ・動物の足あとを探したり、冬芽の観察をしたりしよう！
 - ・展望台から雪の庄内平野を眺めよう！
- ※活動時間によって活動内容、場所を選択してください。

展望台までの道は長ぐつでも歩けるように事前に作っておきます。安全に気を付けながら、道なき道を進む楽しさをぜひ体験してください。

- ⑤ トランシーバーで事務室まで戻る旨を伝える。
- ⑥ 玄関前到着

事件事例の紹介 ～安全な雪あそびのために～

概要： 2023年8月24日、島根県^{おおなん}邑南町の「瑞穂ハイランド」で、施設がゲレンデに設置したウォーター
スライダーで遊んでいた、小学3年生が、別の児童と接触、転倒し、死亡した。

【新聞記事の紹介】(山陰中央新報デジタル)の紹介

午後2時半ごろ、島根県邑南町市木のレジャー施設「瑞穂ハイランド」のウォータースライダーで遊んでいた、同町在住の小学3年の男児(8)が、別の児童と接触した際に転倒する事故があった。男児は意識不明の状態^{おおなん}で病院に搬送された。川本署や邑南町によると、男児はウォータースライダーの途中で止まっており、**後ろから滑ってきた児童と接触し転倒**。当初は大声で泣いていたが、**車内で休んでいる際に意識と呼吸がなくなった**という。江津邑智消防組合消防本部によると、**後頭部を打撲**していたといい、町内の病院に搬送後、ドクターヘリで出雲市内の病院に搬送された。

町によると、この日は地元の公民館と児童クラブ共催のイベントで、少なくとも小学1～6年生の10人が参加。公民館の職員ら**大人7人**が引率していた。当時、ウォータースライダーには**5人の児童**が遊んでいたという。邑南町学びのまち推進課の高瀬満晃課長は、当時の状況は確認中だとし「あってはならないことが起きた。詳細を把握し、今後の対応を考えなければならない」とし、施設を運営するアオイテクノサービス(広島市)の地域創生事業部の日野広和課長は「**安全を管理しきれていなかった**。事故が起きた事実を受け止め、再発防止に努める」と話した。ウォータースライダーは全長25メートル、幅1メートル。傾斜約15度の坂道にビニールシートを敷き、坂の上から水を流して滑る。設置は瑞穂ハイランドの夏営業が始まった2022年に始めた。施設はウォータースライダーのみを当面中止とし、通常の営業は続ける



このような事故を起こさないために

<p>ウォータースライダーの途中で止まっており、後ろから滑ってきた児童と接触し転倒した。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・約束の徹底。(逆走禁止。止まったら速やかに移動。前の人がいないことを確認してから座る。) ・監視者の目視と合図の徹底。ゴール、スタート系の連携。
<p>当初は大声で泣いていたが、車内で休んでいる際に意識と呼吸がなくなった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・事故発生時の速やかな対応。 ・安全の確保と応急処置。 ・各所への連絡と救急搬送、通院。